

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立桑名北高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校像		生徒と共に創る教育活動をととして、地域に信頼される北高
(2)	育みたい生徒像	【育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)】 ア 社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた北高生 イ 主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる北高生 ウ 以下に示す「7つの力」を身に付けた北高生 ①聴く力 ②話す力 ③書く力 ④読み取る力 ⑤考える力 ⑥前に踏み出す力 ⑦協働する力
	ありたい教職員像	① 「主体的・対話的で深い学び」を心がけ、授業改善に熱心に取り組む教職員 ② 夢や希望する進路が保障できるよう、様々なデータの分析結果を共有し、「キャリア教育」に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	① 生徒 「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業と、「朝の学習の時間」等の取組により、学力が身についていることを実感し、充実した高校生活を送ることができる。 ② 保護者(各家庭、PTA) 安全・安心に高校生活を送ることができるとともに、希望する進路が実現できるよう、学習活動やキャリア教育が充実している。	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	① 保護者 ○ 安全・安心な学校 ○ 学力向上・進路保障が実現できる学校	① 保護者 ○ 教育活動への参画、家庭教育の充実 ○ 親子の豊かなコミュニケーション
	② 地域住民(自治会) ○ 地域の青少年の模範となる生徒 ○ ボランティア活動、防災等での地域連携	② 地域住民(自治会) ○ 学校教育活動への支援と理解
	③ 中学校 ○ 学力・体力の向上、部活動の充実 ○ 進路の保障 ○ 多様な生徒への対応	③ 中学校 ○ 緊密な中高の連携と相互理解 ○ 本校の特色や取組の中学生への紹介
	④ 事業所、NPO ○ マナー、コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着 ○ 忍耐力の育成	④ 事業所、NPO ○ キャリア教育充実のための連携強化(例:インターンシップ) ○ 求人数の増加

(3) 前年度の学 校関係者評価 など	【育成をめざす資質・能力】 本校の「宝物」といってもよい「7つの力」について、アンケート結果を踏まえると、抽象度が高く、社会人となった時に特に必要とされる「⑥前に踏み出す力」「⑦協働する力」を3年間の見通しを立てて、系統的に身につけていけるような工夫が必要と考えられる。 【資格の取得】 基礎学力や学習意欲の向上等には、資格の取得が有効な手段の一つと考えられる。履歴書や調査書に記入できる取得が一つでもあった方が、受験先の印象が良くなることもあるかもしれないので、検定試験の合格や資格の取得を更に積極的にすすめてもらいたい。 【基本的生活習慣の向上】 地域の道路を通学する際の自転車の運転マナーや歩きスマホ等について、一部の生徒ではあるが、地域住民の方の関心が高い状態が続いている。引き続き、教職員が地域を巡回するなど、生徒の通学時のマナーが改善されるよう、家庭の協力も仰ぎながら、生徒への指導を継続していつてもらいたい。 【働き方改革の推進】 教職員の時間外労働時間が減少していない状況が続いている。「お金がないから何もできない」という考え方はせず、効率よく業務を遂行していくために、できることから一つずつ取り組んでもらいたい。				
(4) 現状と 課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="304 808 384 1368">教育活動</td><td data-bbox="384 808 1465 1368"> ① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストをとおして、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。 ② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに、就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。 ③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、北高生として責任ある行動がどの場でも取れるよう、マナーや約束を守る指導をさらに徹底していく必要がある。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、生徒の人権が尊重される授業の実現や生徒アンケート、自転車の安全運転指導等、安全・安心に過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="304 1368 384 1910">学校運営等</td><td data-bbox="384 1368 1465 1910"> ① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 令和3年度に時間外勤務時間を縮減した成果を継承し、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。 </td></tr> </table>	教育活動	① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストをとおして、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。 ② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに、就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。 ③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、北高生として責任ある行動がどの場でも取れるよう、マナーや約束を守る指導をさらに徹底していく必要がある。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、生徒の人権が尊重される授業の実現や生徒アンケート、自転車の安全運転指導等、安全・安心に過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。	学校運営等	① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 令和3年度に時間外勤務時間を縮減した成果を継承し、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。
教育活動	① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストをとおして、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。 ② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに、就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。 ③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、北高生として責任ある行動がどの場でも取れるよう、マナーや約束を守る指導をさらに徹底していく必要がある。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、生徒の人権が尊重される授業の実現や生徒アンケート、自転車の安全運転指導等、安全・安心に過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。				
学校運営等	① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 令和3年度に時間外勤務時間を縮減した成果を継承し、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。				

3 中長期的な重点目標

教育活動	【教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)】 ア 「自律・誠実・協働」の心を持った生徒を育む教育活動の推進 イ 生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進 ウ 人と人とのつながりの大切さを学べるよう、自他の理解、人間関係形成能力、コミュニケーション能力の育成を目指した学習活動を推進 ① 【学力の定着と向上】 「桑北スタンダード」の「活用」による「7つの力」の育成。 ② 【キャリア教育の推進】 好調な就職実績の継続とそのノウハウの進学指導への反映。 ③ 【生活習慣の確立】 丁寧で粘り強い生徒指導の継続と家庭学習の定着。生徒の参画による活動推進。 ④ 【安全・安心の学校づくり】 安全教育の推進と感染症予防対策、危機管理体制の強化。
学校運営等	① 【円滑で戦略的な組織運営】 必要な会議の精選と日常的な情報共有の確保、新教育課程の着実な実施。 ② 【信頼の確保と指導力の向上】 日々の研鑽や研修を通じたコンプライアンス意識の向上、指導力の向上の取組。 ③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校教育活動の地域等への発信、学校紹介動画等での啓発。 ④ 【働き方改革の実効性の向上】 計画的な業務の進捗管理と業務の精選の徹底。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿	【入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)】 ア 規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 イ 大学進学など、明確な進路意識を持って学業に取り組める生徒 ウ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める生徒
---------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。…【活標】と略します。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。…【成標】と略します。

【その他の略表記について】本校の総合的な探究の時間を「みらい」といいます。…「みらい」と略します。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点 ① 学力の定着と向上	【1学年】 ①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長 【活標】 ①基礎力診断テスト、朝学を通して基礎学力の定着を図る。 ②各教科において知識を活用して思考判断する課題を準備し、進度の差に対応する。 【成標】 ①基礎力診断テストの評価で D3 の人数を 20 人以下、A 評価者を 3 人以上、学年評価 C 以上。 ②学力上位層や進学希望者をピックアップし、次年度カレッジクラス希望者を 40 名確保。校内模試受験者 3 名以上。	【1学年】 ① 第一回(4月26日実施) 国数英 A 評価者なし 国語 なし 数学 1 名 英語 2 名 D3 評価者 69 名 学年評価 D2- 第二回(9月12日実施) 国数英 A 評価者なし 国語 なし 数学 なし 英語 2 名 D3 評価者 64 名 学年評価 D2-	※

	【2学年】 ① 基礎学力の定着 ② 学力上位層の実力伸長 【活標】 ① 授業、基礎力診断テスト(全3回)、朝学(毎日)を通して各コースに応じた学力の定着を目指し、取り組む。 ② カレッジクラスにおいて、校外模試(年4回)を推奨する。また、課外授業(学期毎)を行い、進学に向けて必要な学力をつける。 【成標】 ① 基礎力診断テストの評価でD3の人数を30人以下、学年評価C以上。 ② 基礎力診断テストの評価Aゾーン3名以上、Bゾーン5名以上。実力テスト3教科200点以上を3名以上。 【3学年】 ①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長 【活標】 ①基礎力診断テストや実力診断テスト、授業、朝学を通して基礎学力の定着を図る。朝学で継続的に一般常識ワークや、新聞記事を取り上げた課題に取り組んでいくことで進学・就職試験対策の準備をする。 ②校外模試の受験や課外授業の受講を促し、自身の学力の定着度や勉学への意欲を高めていく。カレッジクラスは週末課題を定期的に配信し、小論文や受験の対策をする。 【成標】 ①基礎力診断テストの評価でD3の人数を30人以下、学年評価C以上。 ②基礎力診断テストの評価Aゾーン5名以上、Bゾーン10名以上。	学年評価、D3 評価人数、A 評価人数ともに目標を下回っている。しかし、朝の学習の時間で中学校の復習を取り入れた結果、第三回は成績が伸びる見込みである。 ②カレッジ希望者 40 名。 定員数を確保することができた。 【2学年】 第1回(4月26日実施) A 評価者 国数英 1名 国語 5名 数学 5名 英語 4名 D3評価者 49名 学年評価 D2+ 第2回(9月12日実施) A 評価者 国数英 4名 国語 2名 数学 4名 英語 7名 D3 評価者 42名 学年評価 D1- ① 第1回、第2回ともに未達成 ② 第1回 Aゾーン 1名未達成 Bゾーン 14名達成 第2回 Aゾーン 4名達成 Bゾーン 17名達成 実力診断テスト200点以上 6月 1名 10月 1名 未達成 【3学年】 基礎力診断テスト結果(4月26日実施) Aゾーン 0名 Bゾーン 4名 D3ゾーン 53名 学年評価 D1- ①D3の人数30人以下は達成できなかったが、前回・前々回と比べて徐々に人数を減らすことができた。また、学年評価もCには届かなかったが、前回のD2+を上回るD1-となった。 ②評価Aゾーン、Bゾーンの人数達成には至らなかったが、今回、前回D1～D2ゾーンだった人数が10名程、Cゾーンに上がっていたことは成果である。	
--	---	--	--

【教務総務部】 ①生徒が主体的に学び合う学習の場をつくる。 【活標】 授業毎にペアワークやグループワークなどを組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の構築に積極的に取り組む。 【成標】 生徒アンケートで、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることに対する肯定的な回答：70%以上 ②わかる授業を実現する。 【活標】 ICTの活用やユニバーサルデザインの授業づくり等の基礎的環境整備と合理的配慮などにより、わかる授業への改善をすすめる。 【成標】 生徒アンケートで、「授業がわかる」の回答：80%以上。 【進路指導部】 ①主として基礎力診断テストを用い、学力把握に努め基礎学力の定着と伸長を目指す。 ②進路実現に向けた課外授業の企画 【活標】 ①各回の学年平均 GTZ D1以上 ②全学年に課外授業の企画 【成標】 ①各回の GTZ D3 25%以下 ②課外授業の受講者のべ70人以上 ≪各教科の目標≫ 「桑北スタンダード」を活用した授業を行う。 【国語】 ・1人1台端末を用いた調べ学習や意見発表等を取り入れ、多様な生徒に配慮しながらグループワーク等で主体的に思考し学び合う機会を増やす。 ・また、漢字検定の資格取得を奨励し、学力の高い生徒には	【教務総務部】 ①生徒の実態調査アンケートより ・「あなたは、ペアワーク・グループワークに参加できていますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」 75.6 %⇒達成 ・「あなたは、ペアワーク・グループワークを通して、学力が身についたと思いますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」 70.2%⇒達成 ②同アンケートより ・「桑名北高校の先生は、わかりやすい授業のための工夫をしていると思いますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」 87.4%⇒達成 ・「あなたは、桑名北高校で授業を受けて『わかる！』が増えてきたと感じていますか？」 の質問に対し、 「かなりそう思う」「そう思う」 81.1%⇒達成 【進路指導部】 【活標】 ①について 1年 全3回で未達成 2年 全3回中1回達成 3年 全1回で達成 【成標】 ①について 1年 全3回で未達成 44.2%、43.8%、39.2% 2年 全3回で未達成 30.6%、26.3%、30.1% 3年 全1回で未達成 28.6% ②について 延べ参加数74人で達成 【国語】 全学年が一人一台端末を持つことになり、ICT 端末を使用した調べ学習や意見発表を定着させ、主体的に学び合う機会を増やしていくことができた。手書	
--	---	--

発展的な問題を勧めていく。(7つの力の「考える力」「読み取る力」「書く力」に特に注力する)

【地理歴史・公民】

・生徒の考える力を育むことを目標とする。そのために、生徒が主体的に取り組む発問やワークを、全ての科目で1コマにつき1回取り入れて、教師主体の授業とならないよう授業の進め方に留意する。生徒がICT機器を活用して主体的に学ぶことができるような授業の組み立てを行っていく。

・また、発想を広げたり、相手を尊重する気持ちを育むため、お互いの考えを共有し合う機会を設けたり、グループワークやペアワークを取り入れたりして、多様な考えに触れる機会を設ける。

【数学】

・ペアワーク・グループワーク等の共同学習を通じて、桑名北高校7つの力を養える授業展開を行う。

・週末課題や小テストなどを通じて、既習の学習内容のより深い定着を目指す。

・自分で単元ごとに自分で決めた取組目標を設定し、その進捗を確認(振り返り)することで生徒の主体性を高め、学習内容の定着を図る。

・さらなるICT機器を活用した授業の組み立てを行い、教員一人ひとりが研鑽を重ね、実践し、生徒が主体的に、より深い学習ができることを目指す。

【理科】

可能な限り、実物の資料やICTを使用し、生徒がイメージしやすい授業を心がける。仲間とともに課題や実験に取り組み、協力して課題を解決する力を養う。

きで自分なりの考えを文章にまとめる機会が減らずにICTの良さを取り入れることで「考える力」「読み取る力」「書く力」を養うことができた。漢字検定を年2回にし、各回の受験者数を増やすことで、より緊張感のある環境で資格取得を目指すことができた。

【地理歴史・公民】

・授業プリントでは考えるための課題設定としてKey Questionを設け、生徒達がクロームブックや教科書を活用して自ら調べたり、他の生徒やグループと意見の交換をさせることで深い学びにつなげることができた。

・また、Jamboardやスライドを活用し、他の意見を視覚的にも見やすく・分かりやすくすることで、自身の意見との比較や見識を広げるよいきっかけとなった。

【数学】

・各授業において、教員一方向の授業にならないよう心がけ、ペアワーク、グループワークの時間を設けることができた。

・1年生・3年生においては週末課題を実施し、既習内容の定着をはかることができた。全学年のチャレンジクラスでは小テストを活用して既習内容の定着をはかり、定期テストにつなげることができた。

・単元ごとに生徒自身が目標設定をすることにより授業に計画的に前向きに取り組むことができた。

・今年度新たに3年生の授業でChromebookを用いての調べ学習やレポート提出などを授業内に実践した。教科内で授業見学や意見交換を行うことによりお互いの授業力向上につながった。

【理科】

プロジェクトなどを用いて実験の映像やアニメーションを見せることで、生徒とイメージを共有できた。また、グループワークや実験を行うことで、協力して課題に取り組む力を養うことができた。

【保健体育】

・体育と保健の関連性を意識しながら、生涯を通して健康に生きるための知識、見方、考え方を学ばせる。
・個々の課題に対して、ICT の使用やペア活動・グループ活動を通して、他者と関わり合いながら協力して解決する力を養う。

【芸術】

・授業の目標やねらいの明確化に努める。具体的には、ICT を活用して写真や映像・音声を示したり、実物などの資料を活用したりすることでイメージを持ちやすくする。
・それぞれの生徒が自分にあった課題を自ら設定して取り組むことができるように課題や設問・助言を工夫する。

【英語】

・英語を「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能をバランスよく学習できるような授業とする。基礎的な内容を繰り返し指導し学力の定着を図るとともに、学習の仕方を身につけ主体的な学習に結びつくよう指導する。
・ICT を活用し、英語でのプレゼン等を通し、発信する力を養う。

【家庭】

・実習や調べ学習やペア活動、グループ活動を通して、聞く態度や伝える力を養い、協働する力を育成する。
・ICT を活用し、視覚から生徒の興味や理解につなげる。
・一人一台端末を利用し、各自の進度にあった内容を確認させることで、技術の獲得につなげる。

【情報】

・直面する課題や目的に適した情報手段を主体的に選ぶことができるように、様々な手段を学び、問題解決や目的達成のために情報や情報手段を適切に活用する能力を育む。
・実習などを通して実際に体験させ、経験を積み重ねることで得られる結果を自ら評価し、改善を図る。
・情報の発信先、伝達先には必ずその情報をみる人がいることを意識して、発信先、伝達先にとって分かりやすかつ不快な思いをさせないような情報の発信・伝達ができる能力・態度を養う。

【商業】

・簿記については、ビジネスに関する実務との関連性を認識させる。プロジェクトを活用し、授業の効率化を図る。
・情報処理については、情報を収集・処理・分析し表現する一連の諸活動において情報を活用する能力・態度を養う。書画カメラを活用し、授業の効率化を図る。

【保健体育】

・運動中の事故について保健の授業において体育で実施しているスポーツと関連させて授業を行った。
・課題をいくつか用意しておき、生徒が自分にあった課題を設定し、学習に取り組めるよう授業を行い、生徒の学習効果が高まった。

【芸術】

・クロームブックやプロジェクトなどの ICT を活用し、解りやすい授業に努めることができた。
・生徒自ら目標を設定できるように、助言を丁寧におこなうことができた。

【英語】

・教科書の精読やリスニング、ALT との対話やパフォーマンステストを通して、「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能を意識した授業を心掛けることができた。
・Google スライドを用いたプレゼンを英語で行うなど、ICT を活用しながら発信する力を高めた。

【家庭】

・座学の授業では、ペア活動の機会をもち、伝える・聞く態度を意識させ、知識の共有を促すことができた。
・実習では、動画を見せることで、実技内容をより明瞭化することができた。
・実技に関しては、生徒の技術の獲得のため、クロームブックの活用方法や授業形式の工夫をさらに進めていきたい。

【情報】

様々な場面を想定しながら ICT の活用方法を実際に体験させることができた。コンピュータに指示することを学ぶことにより、問題解決力やコミュニケーション能力の向上にもつなげることができた。しかし、目的や場面によって主体的に手段を適切に選ぶのは難しいと思われるのが課題である。

【商業】

・簿記の授業においてビジネスに関する実務との関連性を認識させることができた。しかし、プロジェクトを使用すると効率化が図られるが、帳簿等が1画面に収まらず、つながりが分かりにくくなってしまっているのであまり活用することがで

	【ヒューマン】(学校設定教科) ・コミュニケーションワーク・保育園児との継続的交流を通して、自他への理解を深め、粘り強く人と関わる力を育てる。 ・ふりかえりによる気づきの明確化と定着、学びの共有を図る。	きなかったのが課題である。 ・情報を活用する能力・態度を養うことができた。書画カメラの活用で、板書の時間を短縮する等で授業の効率化を図れた。 【ヒューマン】(学校設定教科) 生徒は園児と交流を重ねるなかで、真摯に相手に向き合い、関係を構築していくことができた。また、その過程として、ふりかえりを丁寧に繰り返すことが、行動の変容へと繋がっていった。	
重 点 ② キャリア教育の推進	【1学年】 7つの力を意識したキャリア教育 【活標】 「みらい」の授業の中で、自分が身につけたい力を意識しながら、振り返りシートで積み上げていく。インターンシップで勤労観を養いつつ、探究と連動させて職業観を身につける。 【成標】 学年末に、7つの力に関するアンケートを実施し、各生徒が「みらい」で身についたと実感できる力を、3つ以上選択している。 働くことの意義について、何らかの答えを持っている。 【2学年】 ① 進路選択に合わせたキャリア教育 ② 防災を切り口とした「生きる力」の育成 【活標】 ① 総合的な学習の時間(みらい)に自分が目指す進路に向けて自己分析ができる教材や情報を提供する。 ② 「探究」の活動で防災をテーマに年12回のメニューを組み、発表(ポスターセッション)する。 【成標】 ① 自分に合った職種や仕事を知るために外部サイトを使用して調べ学習の機会を設けたり、セミナーや説明会を活用し、企業や上級学校の方と接点を設けたりすることで、より具体的に自分の進路をイメージできる機会を作る。 ② 防災について修学旅行(東北)での経験を活かしながら、地域とともに連携し、災害を自分事として捉える。各自が能動的に取り組み、周囲と関わり合いながら、自助、共助、公助の視点を育む。 【3学年】 ①進路実現 ②社会との接続 【活標】 ①進路説明会、みらいセミナー、面接練習等の進路行事と連動しながら進路実現に向けた学年の気運を高めていく。特にカレッジクラスの進学対応に関して、面接練習など学年団全体でサポートしていく姿勢で臨む。	【1学年】 全体の45%が7つの力について、「得意」「伸びた」と感じる項目を3つ以上回答。インターンシップでは、中学校の職場体験学習で言った分野とは異なる分野での実習を行った。インターンシップに行く前の、「働く」ことへのイメージと行った後のイメージは大きく変わったと感じている生徒が多かった。 【2学年】 ① みらいセミナーや分野別見学会、Handy 進路指導室の活用を通して、進路について考える機会を確保できた。 ②事前に1年の流れを計画し、準備し学ぶことで深い学びにつながっている。修学旅行も活用し、災害を身近なものとして、自分事として捉える意識が醸成しつつある。 「学びの流れ」 1. 南海トラフを想定した学び 2. 修学旅行の事前学習 3. 修学旅行で東日本大震災についての学び・体験 4. HUG(避難所運営)セミナーでPTA、地域とともに学ぶ 5. 1年間の学びをポスターセッションにて発表 6. 優秀作品はイオン桑名にて掲示予定 【3学年】 ①進路未決定者が5名おり、進路実現に向けて学年団・進路指導部と連携し、サポートしていく。 ②185名全員が卒業予定となり目標は達成。 欠席が多いや成績が低い生徒に対し	※

	②社会との接続を意識した「みらい」での行事・各種セミナーを通して、今後のキャリアイメージを持ったうえで卒業させる。 【成標】 ①生徒が妥協せず希望進路を決定した上で、進路決定100%達成。 ②今年度3学年185名全員卒業。 【生徒指導部】 ①挨拶が行き交う学校づくりを行う。 【活標】 朝の挨拶運動や校内での積極的な声かけを通して、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 【成標】 生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答：90%以上。 ②身だしなみ・頭髪の指導を行う。 【活標】 各学期に2回の「頭髪・服装指導」と朝の昇降口指導を基本とし、いつでも進学・就職試験を受けられる状態を目指す。 【成標】 頭髪服装の再指導人数が全体の7%以下。 【進路指導部】 ①低学年次から計画的にキャリア形成を図り、進路意識の向上を目指す。 【活標】 総合的な探究の時間「みらい」等キャリア教育の計画的運用 【成標】 年度末の生徒アンケートによる満足度90%以上 前年度卒業生の早期離職・退学15%以下 ②各学年との連携 【活標】 進路指導部の「みらい」担当と学年との打ち合わせを密にする。 【成標】 「みらい」打ち合わせ100%実施。 ③デジタルツールの利用促進による視野拡大 【活標】 Handy 進路指導室・Google Classroom 等の一層の利用。 【成標】 3年生の Handy 進路指導室の利用率 UP。求人一覧表・指定校推薦一覧表等の基礎情報の共有。	て、日頃からの声掛けや保護者との情報共有を頻繁に行うことで、卒業に向けて学校・家庭と連携してサポートできる体制を形成・維持することが目標達成につながった。 【生徒指導部】 ①「挨拶ができた」の回答が 91.4%であり、目標を達成できた。引き続き、挨拶のしやすい雰囲気をつくっていききたい。 ②各学期に実施した「頭髪・服装指導」での、再指導人数は全体の10.0%で目標であった 7%以下を達成できなかった。頭髪についての生徒・保護者の考え方も多様となっており、指導が難しい場面もあるが、いつでも面接を受けられる身だしなみを目指して指導を続けていく。 【進路指導部】 ①について 敷地内擁壁の崩落により計画の組み替えを行うものもあったが、概ね予定通りに実施した。 【成標】 1つ目 3年生のアンケートで達成 2つ目 2月時点で10.4%で達成 ②について 【成標】 達成 ③について 【成標】 達成 求人や応募前職場見学の繁忙期に効果的に活用した。2年生も12月に Handy 進路指導室を利用開始。	
重点 ③ 生活習慣の確立	【1学年】 ①遅刻・欠席数の減少 ②身だしなみを整える。 ③挨拶と正しい言葉遣いができる。 【活標】 ①遅刻・欠席する原因を解明し、家庭と連携する。 ②服装・頭髪について、進路を意識して身だしなみを整えることの意義を伝える。 ③教員から率先して挨拶を励行していく。正しい言葉遣いをするものの意義を伝える。 【成標】	【1学年】 ①遅刻者数(遅刻率)4～12月分 令和4年度 488人(1.7%) 令和5年度 384人(1.6%) 令和6年度 783人(3.5%) 遅刻率は約2倍となっている。 ②指導拒否実績 1学期 43件 2学期 61件	※

① 学年遅刻数の昨年度比減 ② 毎朝の SHR で身だしなみ指導を行う。 ③ 生徒アンケートで「挨拶ができた」の回答:90%以上を目指す。 【2学年】 ①遅刻・欠席数の減少 ②身だしなみを整える ③挨拶ができる。 【活標】 ①遅刻・欠席生徒と対話し、家庭とも連携する。 ②服装・頭髪について身だしなみを整えることの意義を伝える。 ③教員が挨拶を率先垂範し、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 【成標】 ①学年遅刻・欠席数の昨年度比減。 ②毎朝の SHR に全クラスで身だしなみチェックをする。 ③生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答で昨年度比増を目指す。 【3学年】 ①遅刻・欠席数の減少 ②身だしなみを整える ③「信頼される」行動ができる力の育成 【活標】 ①遅刻・欠席生徒としっかりと対話し、背景・原因を把握することで、今後の対応・対策につなげていく。また、保護者にも連絡し、家庭とも協力しながらサポートしていく。 ②身だしなみを整えることの意義を伝える。朝の SHR にて全クラスで身だしなみチェックをする。そして、自分達で気付き、正していくことができる姿勢を身につけられるよう促していく。 ③毎月、月間目標を立て、その目標達成に向けて実践し、振り返りを行うことで力を育んでいく。 【成標】 ①学年遅刻数の昨年度比減。 ②各頭髪服装指導の該当者を 10 人以下にする。 【生徒指導部】 ①全生徒が遅刻せず一日の学校生活を有意義にスタートさせる。 【活標】 遅刻指導の内容を改め、生活リズムを正すきっかけをつくるとともに遅刻数増加のはどめとする。遅刻の累積数に応じて声かけ・指導をおこない、生徒自身の現状把握につなげる。 【成標】 全学年の遅刻者率(※):各学期・年間で3%以下。 ※遅刻者率=遅刻者数/(在籍者数×授業日数) ②アルバイト等、学校外の活動で生活習慣が乱れないよう、	朝 SHR にて身だしなみチェックを実施 ③今後アンケートを実施予定 【2 学年】 ①遅刻者数(遅刻率)4～12月分 令和4年度 878人(3.3%) 令和5年度 933人(3.4%) 令和6年度 844人(3.6%) 遅刻率は昨年と比べ増加している。 ②毎朝 SHR での身だしなみチェックは継続できている。 →生徒の習慣化につなげたい。 ③今後アンケートを実施予定。 【3学年】 ①遅刻者数(遅刻率) 1学期 昨年度 424 人(3.4%) 今年度 400 人(3.1%) 2学期 昨年度 589 人(4.5%) 今年度 658 人(4.7%) 1学期は進路実現を見据えて、生活習慣を整えることから意識をして過ごすことができたが、2学期の進路決定後(11～12月)は、新生活に向けての準備という意識を持つことには至らなかった。 ②頭髪服装指導の該当者 1学期 男子5名、女子21名 2学期 男子6名、女子9名 3学期 男子8名、女子13名 男子は10名以下を維持できたが、女子は達成することができなかった。しかし、学年独自で月間目標「身だしなみを整える」を立てるなどし、日頃から意識できるような環境を作ることはできた。 【生徒指導部】 ①遅刻者率は1学期 3.4%、2学期 3.2%、全体(1月末まで)3.9%で目標を達成できなかった。全体的に遅刻者数が激増しているが、6月と11月が特に多く、なかだるみの時期であることが顕著にあらわれた。次年度はこの時期に遅刻指導の強化を予定する。 ②今年度の無断アルバイトの指導件数は1件で目標は達成できた。あくまで発覚した件数であり、無断アルバイトをしている生徒は多いと予想される。
---	---

	また手続き申請をきちんとできるように指導する。 【活標】 アルバイト許可については経済的な理由等、やむを得ない理由がどうか、また成績不振科目がないかどうか確認して手続きを行う。無断アルバイトがないよう、周知する。 【成標】 無断アルバイト件数5件以下。 【保健部】 良い習慣を身に付けるための指導、啓発を行う。 【活標】 朝食や睡眠など、基本的生活習慣の確立についての指導・啓発を行う。 【成標】 ・入学オリエンテーションで保護者、生徒に指導:1回ずつ。 ・保健だよりの発行:年間10回以上、必要に応じて随時発行。 ・掲示物の作成:年間2回以上。 ・保健調査や健康診断結果による面談。 ・来室時における個人指導などの実施。	【保健部】 学期毎に注意喚起を呼びかけるなど意識向上に取り組んだ。 【達成】 ・指導・啓発→保護者に1回実施、生徒対象に6回実施 ・保健便り→11回発行 ・保健室前掲示→2回 ・個別面談、保健指導の実施	
重点 ④ 安全・安心の学校づくり	【1学年】 ①家庭との連携 ②校内の環境整備 ③人権感覚を豊かにする 【活標】 ①学年通信の発行。学年会で生徒情報共有をこまめにおこない、家庭連絡をする。 ②HR教室・トイレ・廊下の清掃を徹底する。机上やロッカー上に荷物を置かないよう指導する。 ③一人ひとりを大切に、誤ったことには毅然として対応する。 【成標】 ①各クラス年度当初の保護者との情報共有5人以上 ②毎日の清掃、朝または放課後の教室整備 ③いじめの重大事案0件 【2学年】 ①家庭との連携 ②清潔な学習環境 ③早期のいじめ認知、対応 【活標】 ①学年通信の発行。少しでも気になる様子があれば家庭へ連絡をし、情報を共有する。 ②教員が率先して整備を行い、放課後、教室の机上やロッカーに荷物が無いよう指導する。 ③いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動に注意して早期発見・早期対応を行う。 【成標】 ①連絡なし欠席、人間関係、成績等、細目に保護者連絡を実施。 ②毎日の清掃、放課後の教室整備を実施。 ③いじめの重大事案0件	【1学年】 ①年度当初、中学校からの引継ぎ情報や、保護者からの配慮要望をExcelにまとめ、必要に応じて保護者連絡を実施。その後、学校、学年で情報共有も実施。 ②毎日、朝に学年主任が廊下、トイレ清掃を実施。放課後には担任がクラスの教室整備を実施。進路に関係する行事がある際は、有志の生徒と階段や廊下を清掃し、きれいな環境を習慣化できるよう意識した。 ③いじめの重大事案0件。 【2学年】 ①学年通信は12月末までに7回発行。生徒の学校での様子や学びを保護者に共有できた。担任は細目に電話連絡、保護者会を実施できた。 ②毎朝、廊下、トイレの清掃を実施。教室は帰りのSHR後、担任が整備することを習慣化し、教員が率先垂範し清潔な環境を維持できた。 ③学校生活アンケートを活用し、いじめにつながる事案を早期にキャッチ、丁寧なフォローで重大事案は0件であった。	◎

【3学年】

①いじめを迅速に認知できるようにする。

②家庭との連携

③清潔な学習環境

【活標】

①いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動に注意して早期発見・早期対応を行う。そのための情報共有をこまめに行う。

②学年通信の発行。学校生活の情報を発信するだけでなく、保護者との情報共有を密に行うことで、家庭での様子も把握する。必要に応じて対面での面談も実施していく。

③HR 教室・トイレの清掃を徹底する。

【成標】

①いじめの重大事態0件

②学年通信の発行年間 10 回以上

③毎日の清掃

【教務総務部】

①自他の人権を守る実践行動を身につけることを目的とした人権教育を実施する。

【活標】

生徒の実態把握、人権課題に合った人権LHRのテーマ設定をする。全学年で人権 LHR を2回、人権講演会を年1回実施する。生徒の自主的な活動等を充実する。

【成標】

年度始め、年度末に生徒アンケートを実施。生徒の人権感覚、実践行動の向上をめざす。

②教職員の知的理解・人権感覚の向上に努める。

【活標】

教職員研修を年2回以上実施する。校外研修への案内、人権だよりの発行。

【成標】

研修開催後の教職員アンケートによる意識調査を行い、教職員研修の内容の見直しを行う。

【生徒指導部】

①交通ルール・マナーを遵守し、事故の被害者にも加害者にもならないよう指導する。

【活標】

交通安全セミナーや講話を通して交通マナーの大切さや、事故防止について発信する。

【成標】

登下校時加害・自損事故件数5件以下。

②いじめのない生徒関係の構築を行う。

【3学年】

①いじめの重大事態は 0 件だった。

さらに、早期発見・早期対応ができるよう、日頃からの生徒とのコミュニケーション を密に行いアンテナを高く過ごすことができた。小さなことでも認知していき、教員間で情報共有し見守る態勢を即座に 形成していった。

②学年通信は8号まで発行予定。

3年生は2月から自宅学習となり、1・2年生の時と比べて、発行の機会が少なかったことが起因している。

しかし、学年通信を通して日頃の生徒達の学校の様子や、行事等の日程の諸連絡など家庭との情報共有のツールとして役立てることができた。

③「良い学習は綺麗な学習環境から」という意識を持って 日頃からの清掃に取り組むことができた。今年度も特に教室外の環境整備に力を入れ、荷物の片づけ忘れなどは、該当生徒に注意を促すことで片付けられるよう支援できた。また、廊下やトイレなど共有スペースの清掃にも気をつけることで、生徒達がストレスなく過ごせる環境の整備を行うことができた。

【教務総務部】

①7 月に 1 年「インターネットによる人権侵害」、2 年「障がい者の人権」、3 年「統一応募用紙」をテーマの人権 LHR を実施した。11 月には「部落問題」をテーマに人権講演会を行い、事後学習を行った。講演会后、生徒の意識アンケートでは年度始めの結果と比較して生徒の実践行動の意識が10%の向上がみられた。

②「差別事象における対応」、「障がい者の人権」「部落問題」についての教職員研修をそれぞれ各 1 回、合計 3 回行った。振り返りシートからは、新たな気づき、今後の教育活動に活かしたいなどという回答が多くあり、教職員の人権感覚の向上が感じられた。

【生徒指導部】

①交通安全セミナーや自動車運転マナーセミナー等、外部講師による講話を実施した。登下校時事故件数は4件で目標を達成できた。公共交通機関を利用した登下校時のマナーが引き続きの課題である。

②学校生活アンケートは、学期毎に年3回実施した。4月の学年集会時にいじめ

【活標】 いじめ防止講話や学校生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 【成標】 年 3 回、学校生活アンケートを実施し、活用する。 【保健部】 ①生徒の問題行動に対する予防的な教育を積極的に推進する。 【活標】 1年生:養護教諭と保健体育科の連携による性教育や外部講師を活用したデートDVについて指導する。 2年生:健康診断の事前指導・事後指導による健康管理能力を高める教育を行う。 3年生:専門性の高い外部講師を招き、妊娠・出産についての性教育を行う。 【成標】 各予防教育実施後の生徒アンケート満足度:各 85%以上。 ②感染症に対する予防的措置を講じる。 【活標】 手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の設置と活用を進める。教室の換気を推進する。 【成標】 各フロアに設置、補充。保健講話やたよりにて意識を啓発する。 ③安全・安心を確保するため、非常時の対応力の強化を図る。 【活標】 1年生と全教職員に AED 講習を実施し、適正に取り扱うことができる。 【成標】 講習への参加:80%以上。	防止についての講話をした。4月・11月にピンクシャツ運動を生徒会役員を中心に有志の生徒49名とともに実施し、意識の向上に努めた。 【保健部】 ① 達成 1年:性教育を9月に各クラスにて実施、満足度 88%。 デート DV の講話を 5 月に実施、満足度 91%。 2年:個別面談を実施した。 3年:性教育の講話を 12 月に実施、満足度 94%。 ② 達成 手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の活用、CO₂(二酸化炭素濃度)モニターを利用しながらの換気。 ③1年生の保健の授業内で教職員にも参加を促し、実施した。AED 講習未受講の常勤教職員の講習参加:100%	
--	--	--

改善課題

1 遅刻者

遅刻者率は設定した目標は達成できなかった。特に6月と 11 月が特に多く、なかだるみの時期であることが顕著にあらわれた。次年度はこの時期に遅刻指導の強化を予定する。家庭とも連携しながら、生徒が規則正しい生活を送ることができるように指導等を継続していく。

2 基礎学力の定着と伸長

学力テストを実施した結果から目標の達成が難しい状況がつづいた。継続的に学力の定着と伸長への取組を継続して、進学や就職につなげていく。

3 スマートフォンの取扱い

歩きながらのスマホなど常に画面を見ている状態がみられる。情報が過多となっていることから高校生としてふさわしくない行動などにつながったり、なりすましや闇バイトなどの勧誘から事件にまきこまれる危険性がある。学校生活や社会生活のために適切な利用方法を啓発していくことが必要と考える。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点

取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 円滑で戦 略的な組 織運営	【学校運営】 教育課題に対応するカリキュラムマネジメントを推進する。 ・「基礎力診断テスト」を中核に据えた学力定着の取組が奏功しており、また、「みらい」・LHR 等によるキャリア教育の充実により、生徒の進路意識の向上が図られている。 「コミュニケーション授業」も含めたこれら本校の特色あるフレームを継承・深化させ、学校のさらなる活性化につなげていく。 ・また、各委員会の活動を「目指す学校像」の実現に向けて収斂させることで、本校の教育課題の解決を図る。 【活標】 ・「主任会議」：毎週1回、「企画委員会」：毎月1回開催 ・個別の課題に対しては、「学校信頼向上委員会」「ICT委員会」等を随時開催し、適時適切に対応 【成標】 ・中長期的な本校の教育活動の方向性についての職員間の共有と、喫緊の課題の効果的な解決	【学校運営】 ・「主任会議」は、毎週金曜日3限目に設定。学校行事等を除き定期的に開催できたことから、課題解決に向けて適時即応した学校運営につなげた。 ・「企画委員会」は、ほぼ毎月1回開催し、予定された各活動の円滑な遂行に寄与した。 ・各種委員会の開催については、必要に応じて開催し、課題解決に即応した。	
重点② 信頼の確 保と指導 力の向上	【学校運営】 ①学力の定着と授業力向上の重点化を図る。 落ち着きをみせている生徒の状況をふまえて、特に授業力の向上について、重点化して取り組む。 【活標】 ・管理職による授業見学：年1回以上実施 【成標】 ・基礎学力の確実な定着に向けた学習・指導方法の開発及び PDCA サイクルの構築 ②「学校信頼向上委員会」の主導による研修、コンプライアンス・セルフチェック、管理職による面談、人権研修等の実施により、信頼の確保を図る。 【活標】 ・それぞれの研修：年1回実施 ・セルフチェック：年7回実施 ・「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組 【成標】 ・体罰、セクハラ等不祥事の根絶 【教務総務部】 ① 教員の授業力向上を図る。 【活標】 教員の授業力向上を目的とした授業公開を年2回、授業研究(相互授業見学)を年1回以上実施する。	【学校運営】 ①管理職による授業見学は、1・2学期にそれぞれ1回ずつ実施し、授業者に指導・助言した。 ②コンプライアンスにかかる研修は、全体研修3回(個人情報管理、電話対応、わいせつ・体罰・差別発言・交通法規)、各個人での研修(個人情報管理)1回、各個人の動画視聴による研修(ハラスメント)1回。これとは別に、「信頼される学校であるための行動計画」にて設定した職員の意識向上を図る取組として、Google フォームにて作成した「コンプライアンス・セルフチェック」を、教員に配信、実施した。 また、人権にかかる全体研修は、全体研修を3回(差別発言への対応、人権意識の向上、障がい者の人権(講演会))実施した。 個人面談の機会を活用して、管理職からの声かけも実施した。 【教務総務部】 ①5月と11月に授業公開を行い、在籍生徒の保護者、中学校の教員、中3生の保護者にも来校していただいた。また、11月の授業公開と並行し	◎

	【成標】 ・一人当たり1回以上の授業見学の実施:80%以上。 ②教員の ICT 活用力の向上を図る。 【活標】 教員の ICT 活用力向上を目的とした研修会を実施する。 【成標】 授業支援ソフト「WinBird」を活用するための教員研修を1回以上実施する。	て、教員どうしの相互授業研究を行った。 1回以上の授業見学の実施100% ②ICT 活用力向上を目的とした研修会を2回実施した。そのうち、1回は着任者・非常勤講師へ向けた授業支援ソフト「WinBird」の研修会であり、「WinBird」を活用することにより、生徒の状況把握や複数の生徒の考え方等の比較を行うことができた。また、ICT 活用の方法や事例等を職員へ配信し、活用力向上を図った。	
重点③ 開かれた 学校づくりの推進	【学校運営】 ①家庭・地域連携の強化と教育活動の地域発信を図る。 【活標】学校実態調査アンケート:年1回実施 【成標】本校の諸取組への肯定的評価 【活標】HP、きずなネット、Google Classroom、報道機関等を活用した効果的な情報発信 【成標】必要な情報発信:100% 【活標】遠足・体育祭・文化祭の実施前の回覧板への情報発信:年3回 【成標】発信率:100% ②学校関係者評価委員会、PTA 役員会、生徒会等の改善提案を生かした学校づくりを行う。 【活標】 ・前年度の学校関係者評価委員等から提出された改善提案に関連する改善事例:2件以上 【成標】 ・改善提案を次年度の教育活動に効果的に反映 ③学校運営費の適正かつ効率的な運用に努める。 【活標】 各分掌・教科の要求に基づき、学校運営費を適正に配分し、効率的な運用に努める。 【成標】 教職員アンケート:満足度 90%以上 ④快適かつ安全・安心な教育環境の充実に取り組む。 【活標】 学校施設・設備整備・点検を常に行い、県教育委員会に修繕すべき箇所の予算を要求して、教育環境の充実に努める。 【成標】 教職員アンケート:満足度 90%以上	【学校運営】 ①7月に実施した「学校実態調査アンケート」については、集計・分析結果を PTA 発行の「桑北だより」で発信した。学校HPは、長期休業中を除きほぼ毎週の頻度で、体育祭や文化祭などの学校行事、探究活動、部活動の様子等様々な活動を発信できた。また、発信内容によりきずなネットや Google Classroom 等を選択しながら、適時必要な情報を発信した。 ②生徒会活動により出された改善提案(「北高カイゼンミーティング」の取組)について、各部各学年での検討をふまえ、次年度の活動につなげていく。 ③学校運営費の適正かつ効率的な運用 ・各分掌・教科の要求に基づいての運用を行った。特に生徒用コンピューターのソフトウェアの更新を行った。 ④快適かつ安全・安心な教育環境の充実 ・8月に校内坂道擁壁が崩落したため、緊急に応急工事を行った。本格復旧工事は令和7年度。 ・武道場に空調を新設する工事を行った。 ・昇降口西側の屋上防水の予算が付いたので、修繕を行った。 ・今年度も照明器具のLED化工事の予算が付いたので、階段、廊下及びトレーニング場をLED灯とした。	
重点④ 働き方改革の実効性の向上	【学校運営】 総勤務時間の縮減を進めるため、時間外労働時間の上限を遵守するとともに、計画的かつ組織的な学校運営に取り組むことにより、学校の働き方改革を推進する。 【活標】 ①定時退校日の定時に退校できた教職員の割合	【学校運営】 ～数値は全て1月末現在～ 〈総勤務時間の縮減〉 ①定時退校日の定時に退校できた教職員の割合:64.6% ②計画した日に休養日を設定できた	※

	:80%以上 ②計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 :100% ③放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 :90%以上 ④スクール・サポート・スタッフ、支援員の有効的な活用。 【成標】 〈時間外労働時間〉 ①年 360 時間を超える教職員数:0人 ②月 45 時間を超える教職員の延べ人数:0人 ③一人あたりの月平均時間外在校等時間:15 時間以下 〈休暇取得〉 一人あたりの年間休暇取得日数:前年度比 1 日増加	部活動の割合:100% ③放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合:78.8% ④スクール・サポート・スタッフ (SSS)と支援員の配置により、教員業務の負担軽減につながった。 〈時間外労働時間〉 ①年 360 時間を超える教職員数:9人 ②月 45 時間を超える教職員の延べ人数:50人 ③一人あたりの月平均時間外在校等時間:24.8 時間 〈休暇取得〉 一人あたりの年間休暇取得日数 R5 17.0 → R6 13.7	
--	--	--	--

改善課題

1 時間外労働時間

時間外労働時間の縮減については、設定した成果指標を3つとも全て達成することができなかった。教職員定数が減る中で、業務分担の在り方や業務内容や量を見直す等、引き続き働き方改革の取組をすすめていく。

2 学校環境

8月に校内坂道擁壁が崩落したため、緊急に応急工事を行った。老朽化による改修が必要な箇所が増えていることから計画的な修繕を行い、教育活動に影響しないように努める。

3 学校運営や組織の見直し

クラス数の減少に伴い教員定数が削減されていくことから、従来の業務遂行や学校運営が難しくなっている。業務内容や取組内容を見直し、必要に応じて縮小・削減していくことが必要となる。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	1 学習の取組 朝学の取組を続けてきたことはすばらしい。朝学は成功しにくいことが多いが、今後も継続して実践していったほしい。
	2 スマートフォンの取扱い スマホ依存症について、スマホが気になって学校生活に集中できないことがあり、子どもたちの間だけでなく社会全体の問題となっている。「7つの力」プラスαでスマホをコントロールできる力をつけていく取組が必要に感じる。
	3 規範意識の醸成 社会生活ではルールを守らないことが、自分の不利益となることから、生徒が将来、社会に出て困らないために生徒自身がルールを守る意義を持てるような指導をお願いしたい。
	4 地域との連携 生徒の登下校において、地域住民に対する迷惑行為等がみられたが、下校指導の実施により、少しずつ効果が出てきている。引き続き生徒の指導をしていただくとともに、夏祭りなど地域との交流を進める機会を増やし、活気ある街づくりに貢献してもらいたい。
	5 遅刻や身だしなみの指導 遅刻や身だしなみは学校だけでなく、家庭での躾教育も必要なことである。引き続き学校と家庭が連携して取り組んでももらいたい。

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	1 外部人材や機関との連携 多様な環境のもとで育ち、様々な支援が必要な生徒の入学が増えてきたことから、引き続き、校内で情報共有や研修を進めて、教職員の力量を高め、生徒を支援していくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、高校生活スペシャルマネージャー、外国人生徒支援専門員、児童相談所等外部人材や機関との連携を深めていく必要がある。 2 指導方法の見直し 学校生活において、規範意識が低く、生徒指導に係る特別指導を要する生徒が多くなっている。また、中途退学者や転学者が増加していることから保護者と連携を図り、前向きな学校生活を送ることができるよう、指導の改善に努める。
学校運営についての改善策	1 学校運営や組織の見直し クラス数の減少に伴い教員定数が削減されていくことから、従来の業務遂行や学校運営が難しくなっている。業務分担の在り方や業務内容や量を見直す等、引き続き働き方改革の取組を進めていく。